

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401764
法人名	社会福祉法人 北串会
事業所名	グループホーム かをり
所在地	長崎県雲仙市小浜町山畑3 1 4 4番地 (電話) 0956-76-5055
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月 9日

【情報提供票より】 (平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造コナニアル葺平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立新小浜病院 (医)博愛会哲翁病院 松島内科 草野歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に、保育園を運営している運営者が地域に貢献できる福祉活動の一環として設立されたホームである。木造平屋造りの家庭的な雰囲気の中で、天井が高く取られ、大きな窓が利用者の寛ぐリビングいっぱいに広がり、その窓からは海が見渡せ、夕方には小浜町の美しい夕日が眺めることができ自然に包まれたようなホームである。そんな環境で利用者は、ゆったりと穏やかに過ごしている。このホームの優れた所は、しっかりした独自の運営理念を基本に「目くばり、気くばり、心くばり」を介護理念として、それが日々、介護をしている職員に活かされている点である。それが利用者の笑顔や明るさに十分、繋がっていることが印象的であった。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題については全職員で話し合いトイレの入室・空室表示や今期外部研修の積極的な参加等、改善がみられた。また広報誌は発行するまでに至っていないが、家族へ利用者の日常の様子や通院歴を担当を決め手紙を出す等の改善に向けてできる限りの努力が成されていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、施設長及び管理者で作成されており、次回からは職員全員で取り組み、外部評価や自己評価についてその意義を職員全員が理解して、全職員で話し合い、それを基にひとつにまとめていくよう期待する。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者家族代表・雲仙市包括支援センター所長・民生委員・施設長・管理者・計画作成者で構成されており、平成18年10月から1年間で年4回開催されていた。内容は同事業所の保育所との関わりや利用者の方々の状況報告が主で、会議の中で家族からの要望等受け入れもしている。また地域包括支援センターの看護師から指導を受け「感染症マニュアル」の改善等を行うなど介護支援の向上に活かしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書の記載がわかりやすく、その中に苦情受け付け先、苦情相談の解決方法の流れについて明確に表記されており説明もされている。面会時に於いても、家族の意見や要望を吸い取り運営の改善に取り組んでいる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	⑥	日常的に散歩等での挨拶や、近隣の除草作業の手伝い、敬老会、花見、紅葉見物等自治会の近所の方をお誘いしたり、積極的に声をかけて地元の方々との交流や連携を計っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念については平成17年度に、地域に根ざしたホームを目指し従来の理念から改訂を行い、ホーム独自の理念をつくりあげている。その理念については施設内に掲示され、パンフレットにもわかりやすく掲載もされていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営理念を基に日々の職員の指針として介護理念が作成されており、毎日目に付く所に掲示され会議等での確認などにより共有化し、日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域、特に近隣との交流が強く、畑の除草の手伝い等にも積極的に参加している。また敬老会、花見、紅葉見物等、自治会の近所の方を誘って出かけ交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、施設長及び管理者で作成を行っている。	○	次回からは職員全体で取り組み、外部評価や自己評価についてその意義を職員全体で理解して、全職員で話し合い、それを基にひとつにまとめていくよう希望する。

グループホーム かをり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族代表・雲仙市包括支援センター所長・民生委員・施設長・管理者・計画作成者で構成されており、平成18年10月から年4回開催されていた。内容は同事業所の保育所との関わりや利用者の日々の状況報告が主で、会議の中で家族からの要望等受入も行っている。また地域包括支援センターの看護師から指導を受け「感染症マニュアル」の改善等を行うなど介護支援の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	雲仙市との繋がりは、地域包括支援センターが間に入り、センターを通して相談等を行っている。また毎月1回の小浜町地域ケア会議で交流を持ち、指導を受けたり、意見交換等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の請求書発送の折に利用者の日常の様子や通院歴を、担当を決め手紙に書いて同封するとともに金銭報告を実施している。また、職員の異動等は本人、家族に口頭で行っている。しかし、ホーム全体の動きについてお知らせするものが今のところない現状である。	○	前回の改善事項でもあったホームだよりの充実について、ホーム全体の動きや行事、地域との交流を家族にお知らせするためにも季節ごと年4回位から職員で分担し無理のない程度に作成し、それにより家族がよりいっそうホームを身近に感じるきっかけになることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の記載がわかりやすく、その中で苦情受け付け先、苦情相談の解決方法の流れについて明確に表記されており説明もされている。面会時に於いても、家族の意見や要望を吸い取り運営に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職時は、利用者には不安を与えないように配慮している。新規採用の職員が入った場合には、経験のある職員が暫く付いて一緒に行動し、利用者にも慣れてもらうようにしている。		

グループホーム かをり

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の休憩室に研修のお知らせを毎回掲示し、希望があればシフトの調整ができるよう支援している。研修後は「研修・講演会報告書」の提出が行われ、ミーティング時等、職員間に伝達が行われている。特に今年度は、施設長と管理者が話し合い職員の段階に応じた研修計画がたてられ段階に応じた研修参加に取り組んでいた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホームケア研究会や、雲仙支部研修、毎月1回の小浜町地域ケア会議等で、交流の機会があり、ネットワークづくりが成されている。またその会議の中で事例研修も行われ、管理者が持ち帰り職員のサービスの質の向上に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望を受付けた後、利用者、家族も一緒にホーム内を見学し、話し合ってから入居となる。入所当初は家族から情報を得て、その情報を基にした介護支援の中で、本人の行動に対してホーム側からの制限や要望をなるべく避け、その場に慣れることを優先する工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に合わせた支援を心がけており、本人の得意とする事、生活歴から出てくる話など日々の介護支援の中に共通の話題を持ち、特に利用者と職員とが一緒になって作物を作ったり、草むしりや洗い物、干し物等、日常の暮らしの中で支え合って過ごせるような関係を築いている。		

グループホーム かをり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の希望に応じて、個人の得意分野を活かした支援を実施している。また思いを表に出せない方については日々の生活の中での表情の変化を見逃さないようにしたり、耳の不自由な方にはホワイトボードを利用したりと職員で共有し思いをくみとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所して1ヶ月位で介護計画をたてている。介護計画は前もって本人の希望や家族の要望を聞いておいて、スタッフ全員の意見を出し合い、希望を反映するために本人にとって何が必要かを引き出しプランを作成し、家族へ了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度行われており、利用者ひとりひとりが出来ることから計画を立てている。介護福祉士が1名在職しており、認知症について研修に参加し、その都度報告し職員全員と共有しており、新しい知識を取り入れたよりよい介護計画作成や見直しに活かされている。また、状態変化があったら直ぐにかかりつけの病院に相談し随時介護計画の検討見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院の際に、家族の協力を得て早期退院についての話し合いをもっている。通院や送迎等柔軟に対応しており、家族訪問時の送り迎えを出来る範囲で行っている。家人がいない帰宅利用者には要望があればストーブの貸し出しも行っている。		

グループホーム かをり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科医院より年に2・3回訪問治療に来てもらっており、皮膚科や眼科は入所以前からのなじみの病院へ通院し複数の協力医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けての対応指針を定め、状態変化があった場合随時看護師に相談している。終末期のあり方については重度化になる度に家族と話し合いをし、終末期についての意思確認をおこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に馴れ合いの言葉は使わない様指導している。方言でも敬語で丁寧に話すよう全員で心がけている。個人情報の保管場所は決められており、秘密保持についても契約書に記載され個人の写真も許可無く記載していない。また、職員は守秘義務についての誓約書を提出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで起床し、部屋で食事をしたり、遅くまで居間で寛いだり各自の思い思いの過ごし方を支援している。状態の変化に応じて食事時間を遅らせたり柔軟に対応している。		

グループホーム かをり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お米を近所の農家より購入し、美味しいご飯を食して喜ばれている。おかずも好みを把握し苦手なものは違う食材に変えたり好みにあった工夫がなされている。利用者の力を活かした調理の手伝いや、職員も共に楽しく季節感の有る食事をし、後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金の午前中と予定しているが、ひとりひとりの事情に合わせて時間帯を変えたり柔軟に対応している。入浴を拒否された場合無理強いはしていない。楽しむ入浴としては、見守る入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちぎり絵、塗り絵、書道、生け花、カラオケ等それぞれに合ったものを職員と一緒に楽しみながら行っている。ドライブの気晴らしの支援も楽しみひとつとなつている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の畑仕事や買い物、独居の方が自宅の様子を見に行かれることの支援等、個々のその日の希望にそって外出の支援を行っている。車椅子を利用する方や歩行器を使用する方も状態の良い時は庭に出て季節感を味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵はかかっておらず、玄関を出る際には低いセンサー音が鳴動する。職員の目くばりやその日の気分を読み取り、声かけや見守る姿勢に配慮している。問題が有る場合医師に相談している。		

グループホーム かをり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署を交えた避難訓練が年に1回、他に自主訓練が年1回行われている。マニュアルが有り、地域への災害・火災協力緊急連絡網も作成されている。災害備品チェックは半年に一度業者へ依頼している。しかし職員の中には緊急時対応について不安があり、自信がない者もいる。	○	緊急時の対応について職員に不安を取り除くためにも内部研修を設け、夜間の緊急時の対応等研修することで少しでも職員の自信に繋がることを期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事チェックを一覧出来る様に健康チェック票にひとまとめにしてあり、利用者のひとりひとりの健康状態が一読できる様工夫されている。栄養士による指導は受けていないが、いつでも飲めるように飲料水が設置されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高く天窓があり明るく開放的である。廊下も広く車椅子の移動も楽である。居間の窓からは一面山や海が見れ季節感を味合うことが出来る。暖房は床暖房が設置されており、自然な暖房が保たれており、台所での食事の用意する音や臭いが身近に感じられ家庭的で明るく、廊下には寛げるコーナーも設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は日当たりが良く、思い思いの馴染みの物が置かれ、手作りの作品が等も飾られている。押し入れが広く作られており収納もきちんとされている。		

※  は、重点項目。